

生存の中の依存

日時 2018年12月15日(土) 13:00~17:00 (12:30開場)

会場 上智大学四谷キャンパス 6号館402教室

定員 200名 入場無料・申込不要 (どなたでもご参加いただけます)

主催 公益財団法人 生存科学研究所

プログラム

13:00 開会

13:05~16:05 講演

ネット社会の中の生存と依存

上田 紀行 (東京工業大学リベラルアーツ研究教育院長・教授)

依存すること、愛すること

藤山 直樹 (精神分析家・上智大学総合人間科学部教授)

ギャンブル障害の実態と治療

常木 蓬生 (作家・通谷メンタルクリニック院長)

ゲーム障害の実態と対応

樋口 進 (国立病院機構久里浜医療センター一院長)

16:10~16:55 パネルディスカッション

16:55 閉会

入場無料

**どなたでも
参加できます**

問合せ ⇒ (公財) 生存科学研究所 <http://seizon.umin.jp>

TEL: 03-3563-3518 FAX: 03-3567-3608 e-mail: office@seizon.or.jp

第6回生存科学シンポジウム

生存の中の依存

シンポジウム趣旨

2018年6月、国際疾患分類の改訂版（ICD-11）において、俗に「ゲーム依存症」とか「ネット依存症」といわれている状態をひとつの精神疾患（「ゲーム症、あるいはゲーム障害」と訳されることになる）と見做すことが決められた。古くから存在するアルコール依存、薬物依存と同じように、ゲームやネット、パチンコや他のギャンブルに依存する現象は精神科医療の対象とされ、その対策が迫られることになったのである。

しかし、依存症を離れ、依存という現象を考えれば、それは生存と表裏の関係にあることが分かる。個々人が誕生から死にいたるまでの一生の間さまざまな状況での、たとえば、人間が一人の成人として生育、発達していく人格形成の中での依存、家族、学校や職場人間との依存、衣食住の生活における依存、自らの様々な体験や経験への依存、事物や事象への依存、社会への依存など、数え上げればきりのない依存関係が考えられる。

依存のない生存はあり得ないと言ってもいいであろう。

ある特別な事象や事物への依存が過剰になり、その個人の生活、ひいては生命までも危機に陥らせる病的状態で、医療の対象となる依存症は、一方で、上記のような人間の生存の中での表裏の関係にある依存という現象を、一般的観点から理解される必要もあるのではないかという発想から、本シンポジウムは企画された。

その企画の趣旨に沿って、各演者の方が自らの経験や思想を披歴され、聴衆の方々との討論がなされれば、当財団の趣旨である「生存の理法」を究めるためにも、貢献するのではないかと思う。

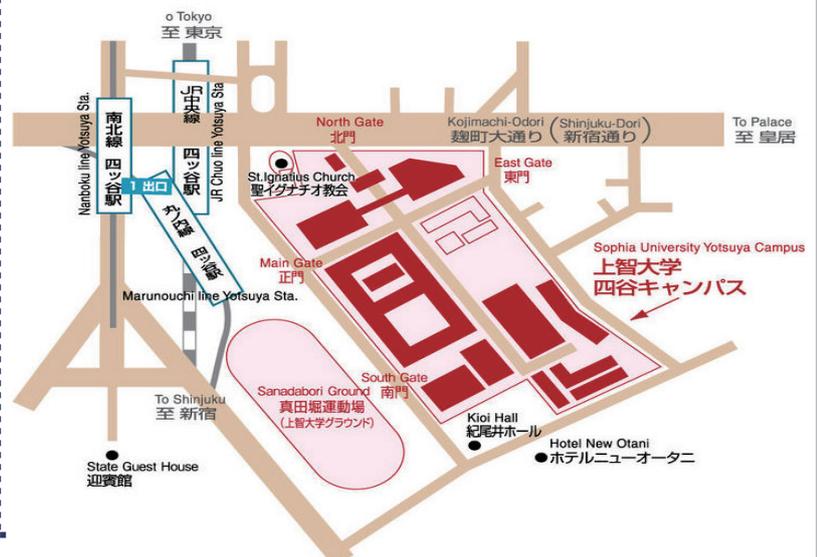
入場無料・申込不要（どなたでもご参加いただけます）

公益財団法人 生存科学研究所

当研究所は、急速な科学の進歩により生じる新たな危機から人類をまもるため、凡ゆる領域から総合的に『生存』問題に取り組む研究所として、医師会会長を長く務めた故武見太郎先生により1984年に設立されました。その活動はホームページに掲載されています。会員は生存科学に関する自主研究を様々な視点から行い、講演会、シンポジウムなど学術誌「生存科学」を通じ、広く一般の方々とその成果を共有するよう努めています。

ホームページ：<http://seizon.umin.jp>

四谷キャンパスアクセスガイド



会場：上智大学四谷キャンパス
6号館 402教室

JR 中央線・総武線／四ツ谷駅
麹町口から徒歩5分

東京メトロ丸の内線・南北線／四ツ谷駅
赤坂口から徒歩5分